

インド野党結集は実現するか モディ1強に挑む地域政党

2023/5/3 5:00 | 日本経済新聞 電子版



南部ハイデラバードで野党「第3勢力」の旗揚げ集会に参加したK・チャンドラセカール・ラオ氏④ら有力地域政党・左翼政党のリーダーたち（2023年1月、ラオ氏のツイッターより）

2024年春のインド次期総選挙まで約1年、ナレンドラ・モディ首相率いる与党・インド人民党（BJP）の一強体制に挑む戦術として、最大野党・国民会議派（ कांग्रेस ）や地域政党、インド共産党（CPI）など左翼政党の結集を目指す動きが再び活発化してきた。

2019年の前回総選挙では与党BJPとその友党でつくる政党連合「国民民主同盟（NDA）」の得票率は約38%と、国民会議派主導の「統一進歩同盟（UPA）」の26%を大きく引き離れたが、両陣営のいずれにも属さない「第3勢力」の得票率合計は一部無所属候補も含めて約35%に達した。小選挙区制を採用するインド下院選では、BJPに挑んだ複数の野党候補が同一選挙区で共倒れとなるケースが目立つ。バラバラに戦ってきた野党が、候補者調整など選挙協力で合意できれば、計算上議席の大幅な積み増しが可能となる。

BRSラオ党首、第3勢力結集を呼びかけ

最初に動いたのが、古都ハイデラバードを擁する南部テランガナ州の地域政党・インド国民評議会（BRS）党首で、同州の首相（県知事に相当）を務めるK・チャンドラセカール・ラオ氏だ。ラオ氏は2009年末、アンドラプラデシュ州の一部だったテランガナ地方の分離独立を

要求して11日間にわたって断食を行い、当時の国民会議派政権に独立を認めさせたことで知られる。

中央政界への進出を目指すBRSは22年秋、党名をテランガナ国民評議会 (TRS)から「インド国民評議会」へと変更。インド選管から待望の「全国政党」に認定され、同年12月には首都ニューデリーに事務所を開設している。

今年1月中旬、ラオ氏が本拠地ハイデラバードで開いた「第3勢力」の旗揚げ集会には、デリー政府の首相（都知事に相当）を務める庶民党（AAP）のアルビンド・ケジリワル党首、同党に所属する北西部パンジャブ州のバグワント・シン・マン首相、北部ウッタルプラデシュ州の元首相で地域政党・社会主義党（SP）のアキレーシュ・ヤダブ党首、インド共産党マルクス主義派（CPI-M）所属で南部ケララ州のピナライ・ビジャヤン首相、そしてCPIのD・ラジャ書記長ら有力政治家が参加した。



「第3勢力」結集を主導する地域政党「インド国民評議会（BRS）」のラオ党首（テランガナ州政府提供）

これまでの政治集会でラオ氏は「世俗主義を擁護する」との立場を強調し、ヒンズー教に肩入れしてイスラム教徒に厳しい政策をとるBJPを批判。経済でも「インドには中国製品があふれている。メイク・イン・インド（インドでもものづくり）は失敗だった」とモディ政権の目玉政策を批判した。

地域政党の思惑、一致せず

だが、基盤がそれぞれ異なる地域政党が全国規模で連携するには限界もある。多くの野党はBJPに対抗するための共闘には合意しているが、そのための選挙協力など具体的な戦術は打ち出せていない。総選挙が近付けば、野党連合による統一首相候補や政権公約を発表しなければならない。新たにつくる野党連合の顔となるリーダーもすんなり決まるとは思えない。特定の州や地域で高い支持率を得ている地方政党にとっては、他党と候補者調整などで選挙協力するメリットは小さい。

テランガナ州での投資案件などを通じてラオ氏をよく知るインド・ビジネス・センターの島田卓社長は「官僚に権限を与えて使いこなし、即断即決で事に当たる点ではきわめて有能な政治家だが、国政の場でモディ首相と対等に渡り合えるとは思えない。野党勢力を結集することで中央政界への影響力を強め、地元の利益につなげるのが第一の狙いではないか」とみている。

ラオ氏は地元テランガナ州でのライバルである国民会議派との連携を強く否定。あくまで会議派抜きの政党連合結成を主張する。だが、ジャナタ・ダル統一派（JD-U）を率いるビハール州のニティシュ・クマール首相や、南部タミルナドゥ州首相を務めるドラビダ進歩同盟

(DMK) のM・K・スターリン党首は「国民会議派のいない野党連合は非現実的」として、ラオ氏には同調しない。下院で52議席を持ち、全国に支部を持つ国民会議派は、与党時代の勢いはないとはいえ政権奪取を目指す上では無視できない存在だからだ。

ラオ氏は昨年末「モディ政権を倒すことが最優先」として国民会議派との共闘に含みを持たせたが、会議派の側は全く歩み寄りの姿勢を見せていない。

一方、スターリン党首は3月上旬、自身の誕生日を祝う行事に国民会議派のマリカルジュン・カルゲ総裁、SPのヤダブ党首、ビハール州のテジャスウィ・ヤダブ副首相らを招待しており、ラオ氏とは別路線で野党連合の結集に動き始めた。

そうした中、これまで他の野党との連携に関心を示さなかった西ベンガル州の政権党・全インド草の根会議派 (AITC) は3月末ニューデリーにあるカルゲ国民会議派総裁の私邸で開いた野党幹部らによる夕食会に所属国会議員2人を派遣し、政界関係者を驚かせた。AITCのオブライエン上院議員団長はこの理由について、「BJPは（強権的な政治手法などで）一線を越えた。我々野党は団結して民主主義や憲法を守らねばならない」と述べた。

また、ビハール州のクマール首相は4月中旬、デリーで会議派のカルゲ総裁やAAPのケジリワル党首と相次ぎ会談。こちらもテランガナのラオ氏とは一線を画し、最大野党・国民会議派を巻き込んだ野党連合を目指して始動した。

成功例乏しい「野党連合」

インド下院の政党・会派別勢力図 (2023年1月末時点)		
政党名	議席数	特徴
国民民主同盟 (NDA)		
インド人民党 (BJP)	303	モディ首相が率いる連邦与党。2024年総選挙で3期目を目指す
シブ・セナ	13	商都ムンバイなど西部マハラシュトラ州に勢力を持つ右派民族主義政党
人民の力党 (LJP)	6	北部ビハール州などを拠点とする地域政党
その他・無所属	8	
計	330	
統一進歩同盟 (UPA)		
国民会議派 (INC)	52	初代首相ネルラを輩出した老舗政党だが、党勢衰退が鮮明に
ドラビダ進歩同盟 (DMK)	24	南部タミルナド州に勢力を持つ地域政党
ジャナタ・ダル統一派 (JD-U)	16	ビハール州の政権党
シブ・セナ (ウダブ派)	6	シブ・セナ分裂に際し、BJPに合流しなかった議員らで構成
ナショナリスト会議派 (NCP)	4	マハラシュトラ州を拠点とする地域政党
その他・無所属	12	
計	114	
第3勢力		
全インド草の根会議派 (AITC)	23	東部コルカタなど西ベンガル州を拠点とする地域政党
YSR会議派	22	南部アンドラプラデシュ州の政権党
ビジュ人民党 (BJD)	12	東部オディシャ州の政権党
大衆社会党 (BSP)	10	人口2億人超、タージ・マハルなどで知られる北部ウッタルプラデシュ州などに勢力を持つ地域政党で、同州の元政権党
インド国民評議会 (BRS)	9	南部テランガナ州の政権党。党首で州首相を務めるラオ氏が「第3勢力」結集の中心人物。2022年に「テランガナ国民評議会 (TRS)」から党名変更
社会主義党 (SP)	3	ウッタルプラデシュ州の前政権党
テルグ人国家党 (TDP)	3	アンドラプラデシュ州の前政権党。党首のナイドゥ氏は前回総選挙前に「第3勢力」結集を主導
インド共産党マルクス主義派 (CPI-M)	3	左翼政党の一角。国民会議派政権時代に一時閣外協力
その他・無所属	12	
計	97	

(出所) インド国会事務局

これまで野党連合結集の試みはしばしば挫折している。前回総選挙直前の2018年3月には、ソニア・ガンジー国民会議派前総裁（当時）が野党20政党の党首らを自宅に招いて晩さん会を開催。同年12月には南部アンドラプラデシュ州首相（同）で地域政党テルグ人国家党（TDP）のチャンドラバブ・ナイドゥ党首の呼びかけで野党21党首がデリーに集合、野党の協力について協議した経緯がある。しかし、CPI-Mなど左翼政党が国民会議派との共闘を嫌い、一部政党が独自の選挙協力を動いたため、「野党連合構想」は幻に終わっていた。

最大野党・国民会議派が党勢回復に手間取る今、地域政党など野党を結集することは有効な戦術となりえる。だが、インド政治・外交を専門とするルパクジョティ・ボラー元ケンブリッジ大客員研究員は「まだ見極めるのは早いが、現段階では野党勢力はバラバラだ。地域政党の多くはそれぞれの州でしか存在感を発揮できていないので、全国レベルでどう選挙を戦うのかは未知数」と分析する。2024年4月に投票が始まる次期総選挙。大きな死角が見当たらないモディBJPに立ち向かおうとすれば、野党にとっては厳しい戦いとなりそうだ。（山田剛）

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.